

名画と遊ぼう 名画で遊ぼう

—子どもたちの出会ったマグリット—

天 野 紳 一

1 名画と遊ぶ

今年の4月から5月にかけて、ひろしま美術館で催された「アントワープ王立美術館コレクション展」の中で、「おうちでつくってみよう！きみだけのマグリット」と題したワークショップが開かれました。シュルレアリスムを代表するベルギー出身の画家、マグリット（Rene Magritte, 1898-1967）。その作品に登場する特徴的なモチーフを自由に並び替え、思い思いの場所に配置しながら、自分なりの不思議な世界をつくりあげようというもので、本校からも何人かの子どもたちが参加して、大いに楽しんだようです。

いわゆる名画に対峙したとき、その絵のもつ社会的・文化的な価値をどうにか受け止めよう、わかろうとして、いつの間にか受け身になってしまう自分に気づくことはありませんか。絵の中に込められた画家の想いや、背景に隠された秘密などを紐解きながら「解釈」する楽しみ方もありますが、もっと気楽に名画と出会い、名画をおかずにして自由に遊んでみることも豊かな鑑賞の方法だと思うのです。

2 不思議の国のマグリット

右の絵をご覧ください。マグリット晩年の代表作の1つです。

中学生の頃、美術の教科書に載っていたこの作品に初めて出会った私はとても大きな衝撃を受けました。シュルレアリスト（超現実派）と呼ばれる画家たちは、現実の中に潜む「非日常」や「夢」、「虚構」の世界を描こうとしたと言われていますが、当時の私もその不思議な世界に心を奪われたのです。激しい波の打ち寄せる海も、翼を広げてはばたく鳥も、1つ1つのモチーフは日常の中で当たり前認知されているものです。ところが、水平線から立ち上るように現れた鳥の巨大さはどうでしょう。そしてその鳥のシルエットで切り抜かれた“空の中の空”。本来、鳥は空を飛ぶもののなのに、その鳥自身が空に？

このようにマグリットは、既存のイメージを次々に覆します。さらに極めつけはその画題『大家族』です。ここにはいったいどんな意味が隠されているのでしょうか。マグリットは、見る者の空想回路にスイッチを入れる、不思議の国の住人なのです。

3 出会い～アート・トーク

2年生の子どもたちと、図工の時間にこの絵を鑑賞しました。まずは、黒板いっぱいに大きく映し出した絵をしばらく静かに見つめました。それから後は、見つけたこと、感じたことを自由に話し合うアート・トーク。子どもたちの大好きな時間です。



大家族 (La Grande Famille)
1963年 油彩 カンヴァス

「波のところが白くなってるから、きっと風が強いんだと思う。」

「空と海のあいだが明るくなってるから、夜が明けているんじゃないかな。」

「鳥のからだの中にたくさん雲が浮かんで、それがみんな家族なんだと思う。」

「なんか、嵐が来てて…この鳥は家族みんなを守ろうとしているように見えるよ。」

「地球が汚れちゃったから、みんなをつれて別の世界へ飛んで行こうとしてるんだよ。」

子どもたちはこの絵を見ながら自由に空想を繰り広げ、物語をつくりました。そのうち、鳥のシルエットの内側と外側で全く別の世界が描かれていることに話題が集まり始めたので、子どもたちもすっかり気に入ったこの鳥のシルエットを使って、2つの世界を結ぶ自分たちなりの物語を絵に描いて表してみることを提案しました。

4 子どもたちの描いたマグリット

まず、それぞれが想像した鳥の内側の世界を、自由に描くところから始めました。用いた画材は、和紙と水彩絵具です。それから外側の世界のイメージにぴったりあう色の画用紙を選び、「マグリットの鳥」の形に切り抜いた型紙を用いて、画面のどこに、どんなふうに羽ばたかせるかを決めて下書きをし、外側の世界を描きました。型紙は裏返して使うこともできるのですが、鳥の向きや角度が変わると、画面の与える印象も大きく変わります。（飛び立つところか、舞い降りたところかというシチュエーション、激しさや穏やかさといった感情など）最後に、型紙どおり鳥の形に色画用紙を切り抜き、別に描いておいた内側の世界を裏側から重ね合わせます。2つの世界が1つに合わさったところで、パステルや色鉛筆を使って仕上げたのが、次の作品たちです。「お話」とともにどうぞ。

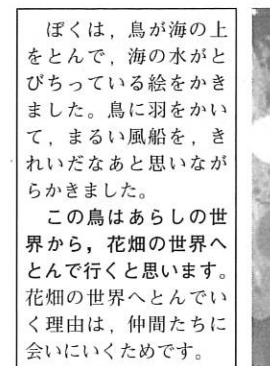
“不思議の国のマグリット”はどんな思いで見ているのでしょうか。



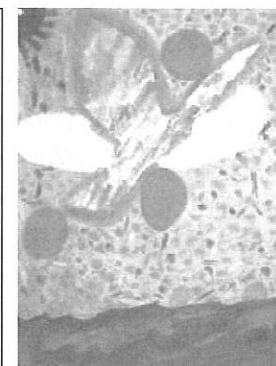
わたしは森のふうけいをかきました。なぜかという自分のゆめの世界をかくようにしたからです。森の中には1軒の家があります。おかしな家です。ドアのむこうはその鳥の世界です。この鳥は今から自分の世界へとんでいくのだと思います。これはわたしのゆめの世界です。



明るい気持ちになって、ふしぎな鳥をかきましたよ。ここは、ようせいがいっぱいいる森の中だよ。下にあるのは勇気の花だよ。白黒の世界から、ふしぎがいっぱいの森の中にとんできたよ。その不思議の森は秋のように涼しいよ。でも、森の中から出ようとしているよ。



ぼくは、鳥が海の上をとんで、海の水がとびちっている絵をかきました。鳥に羽をかい、まるい風船を、きれいだなぁと思いながらかきました。この鳥はあらしの世界から、花畑の世界へとんで行くと思います。花畑の世界へとんでいく理由は、仲間たちに会いにいくためです。



外がわは、くらい悲しいできごとがあったように、くらい色にするようにかいて、中の鳥はなるべく元気に明るく見えるようにかきました。この鳥は、ぜんぶが明るく、くらいところがない、元気な世界にとび立とうとしているから、上を向いた鳥にしました。

